

開催趣旨

ボランティア元年と呼ばれ、「共助」による防災活動の原点となった阪神・淡路大震災から18年。神戸で芽生えた取組が進化し、東日本大震災等を経て、改めて住民やボランティア等による「共助」の防災活動が注目されています。この機会を通じ、住民による自主防災組織から学生や企業による被災地支援活動まで、多様な主体による先進的な取組について、その課題や今後の方向性を考えます。

プログラム

10:30 -	開場・受付開始
11:00 -	開会・内閣府挨拶
11:15 -	基調講演 『防災とボランティアと共助の現状、そして今後への期待』 室崎 益輝（関西学院大学総合政策学部教授・ひょうごボランタリープラザ所長） <small>以下、敬称略、五十音順</small>
12:00 -	休憩・昼食
13:00 -	パネルディスカッション・参加者との意見交換 『みんなで語る、多様な共助の広がり』 ・司会者 鍵屋 一（特定非営利活動法人東京いのちのポータルサイト 副理事長、板橋区福祉部長） 桜井 政成（立命館大学 政策科学部 准教授） ・パネリスト(五十音順) 青木 杏奈（KOBE足湯隊 リーダー） 西條 剛央（ふんばろう東日本支援プロジェクト 代表、早稲田大学大学院 専任講師） 長沢 恵美子（一般社団法人 経団連事業サービス 総合企画・事業支援室長） 松田 曜子（特定非営利活動法人レスキューストックヤード 理事、関西学院大学 災害復興制度研究所 特任准教授） 南 嘉邦（旧居留地連絡協議会 防災・防犯委員長）
16:30	閉会

【ソーシャルメディアの使用についてのお願い】

- インターネットによる動画配信を行います。
参加者の写真及び映像が配信・報道される可能性があることをあらかじめ御了承ください。
URL: <http://www.ustream.tv/channel/minna-bousai>
- 開催後、「防災ボランティアのページ(<http://bousai-vol.go.jp/kyojo/>)」にも録画を公開します。
- 講演内容、感想など、ソーシャルメディア(Twitter、Facebook等)を使って、多くの方への発信してください。
Twitterハッシュタグは、**#minna_bousai** をご利用ください。
パネルディスカッションの後半で、紹介する時間を設けます。
- 発信にあたって、個人の誹謗中傷に関わることはご遠慮ください。

パネルディスカッション 13:00~16:30

『みんなで語る、多様な共助の広がり』

【司会】

以下、敬称略、五十音順

鍵屋 一 (特定非営利活動法人東京いのちのポータルサイト 副理事長、板橋区福祉部長)

(かぎや・はじめ)1983年早稲田大学法学部卒業、板橋区役所入所。法政大学大学院政治学専攻修士過程修了。2006年から法政大学大学院非常勤講師。板橋区総務部防災課長、区福祉部板橋福祉事務所長などを経て、現在は区福祉部長。2002年、東京いのちのポータルサイト設立時から関わり、日本耐震グランプリなどの事業に関わる。内閣府青少年等に向けた防災教育プログラム検討委員会委員、総務省消防庁地震災害応急対応マニュアルのあり方等に関する研究委員、総務省消防庁地方公共団体の地域防災力・危機管理対応力評価指針作成検討会委員、内閣府・災害時要援護者の福祉と防災との連携に関する検討会委員など歴任。

桜井 政成(立命館大学政策科学部准教授)

(さくらい・まさなり)長野県生まれ。2003年立命館大学政策科学研究科博士課程後期課程修了。博士(政策科学)。立命館大学ボランティアセンター 主事(2004年~2006年)、立命館大学ボランティアセンター助教授(2006年~2007年)等を経て、2007年4月より現職。専門:福祉社会学、組織社会学。研究分野:NPO、社会的企業、市民参加、ボランティア、地域福祉、地域活性化、ソーシャルキャピタル、CSR、サービスラーニングなど。

【パネリスト】

青木 杏奈(KOBE足湯隊 リーダー)

(あおき・あんな)広島県生まれ。神戸大学法学部2年生。大学1年から足湯ボランティア活動に参加。能登半島地震や佐用町水害、東日本大震災の被災地にも足を運び、被災地の人々と交流を行っている。

KOBE足湯隊は、能登半島地震の発災を受けて、被災地支援を行う阪神や新潟の学生団体のネットワークによって発足。各地の被災地での足湯ボランティア活動や被災者との交流を展開中。メンバーは、15人。

西條 剛央(ふんばろう東日本支援プロジェクト代表、早稲田大学専任講師)

(さいじょう・たけお)1974年宮城県仙台市生まれ。早稲田大学大学院で博士号(人間科学)取得。「構造構成主義」という独自のメタ理論を創唱。この理論を用い、「ふんばろう東日本支援プロジェクト」を立ち上げ、ボランティア未経験ながら日本最大級のボランティア・プロジェクトへと成長させる。学術書の執筆多数。2012年2月、初の一般書となる『人を助けるすごい仕組み--ボランティア経験のない僕が、日本最大級の支援組織をどうつくったのか』を刊行。現在、著書の印税全額をチャリティとし、被災地の支援に使われるチャリティブックプロジェクトも行っている。

【パネリスト】

長沢 恵美子(一般社団法人 経団連事業サービス 総合企画・事業支援室長)

(ながさわ・えみこ)1983年経団連事務局入局。1996年から企業の社会貢献活動推進を担当。2003年から企業の社会的責任(CSR)推進も担当し、ISOの社会的責任企画づくりに参加する経済界代表をサポート。2009年4月、研修や出版などの事業を行う経団連事業サービスに出向。2011年3月から1年間、経団連の東日本大震災対策本部事務局を兼務。現在は1%クラブ・コーディネーターとして被災地支援を継続。

松田 曜子(特定非営利活動法人レスキューストックヤード 理事、関西学院大学災害復興制度研究所 特任准教授)

(まつだ・ようこ)2007年京都大学大学院工学研究科博士後期課程修了。同防災研究所にて、地域コミュニティでの災害に対する備えに関する研究に従事。2005年よりレスキューストックヤードのインターンとして、名古屋市東山学区の「地域防災力診断シート」の作成や分析等に携わる。2007年より同事務局スタッフ、2009年より事務局長。2007年能登半島地震、2009年新潟県中越沖地震、2010年山口県梅雨豪雨等の被災地支援、および石川県穴水町の商店街復興事業として同復興サロンに参加。2011年東日本大震災後は日本財団ROADプロジェクトと震災がつなぐ全国ネットワークが設置した共同事務局の拠点から足湯ボランティアを派遣、同ネットワークの活動拠点10か所と連携した支援活動を行う。通常時には、水害手づくりハザードマップの作成など地域での災害対策、また、愛知県防災関係団体等実態調査等の事業に携わる。博士(工学)。

南 嘉邦(旧居留地連絡協議会 防災・防犯委員長)

(みなみ・よしくに)1977年神戸市生まれ。戦中に神戸旧居留地に於けるビルオーナーによって設立されていた親睦団体から発展した現在の『旧居留地連絡協議会』の会員企業であり、旧居留地内のビルオーナー会社代表取締役社長。2005年より防災・防犯委員会員となり、2012年より同委員長を務める。

旧居留地連絡協議会では各種の専門委員会を組織し、その中でも防災・防犯委員会では市民救命士講習会を開催し応急救護の方法を学んで頂く場を作り、また警察へも協力を仰ぎ実際的な防犯講習会を開催するなど会員企業のみならず居留地内の企業や就労者に対し防犯・防災意識を高める活動を行い、また自主的な防災活動に積極的に取り組むよう居留地防災マニュアルの策定や行政との連携を図っている。

資料集